

第18回人流データ利活用研究会 議事概要

1. 日時 2022年5月24日(火) 15:00~17:00
2. 場所 総務省第二庁舎408室+Web会議
3. 議事内容
 - (1) 宿泊旅行統計調査シミュレーション(京都府)
 - 2022.1推計では、推奨パターン(実数で最低期間6か月)の乖離率が最大(15.2%)となつてしまつたが、乖離率の絶対値はそれほど大きくなかつた。対数前年同月比での乖離率が最小であつた(-4.0%)
 - 2022.2推計では、推奨パターン(I自動①:実数で最低期間6か月)の乖離率が最小(3.3%)であり、6か月RMSEによる推奨パターンの選定が有効に機能していた
 - (2) 宿泊旅行統計調査シミュレーション(全国)
 - 2022.1の推計では、推奨パターン(実数で最低期間6か月)の乖離率が最小(-14.0%)であり、6か月RMSEによる推奨パターンの選定が有効に機能していた
 - 2022.2推計では、最終推奨パターン(II自動①:前年同月比で最低期間6ヶ月)の乖離率が最小(-19.2%)であつたが、絞り込み過程(I実数・II前年同月比・III対数前年同月比)の全てのケースで推奨パターンの乖離率が最大となつており、6か月RMSEによる推奨パターンの選定が有効に機能していたとは言えない
 - 6か月RMSEによる推奨パターンの選定がうまくいかないケースもあり、推計方法や絞り込み方法の検討が必要である
 - 推計値と統計値との解離状況を蓄積・学習させて、RMSEや決定係数などの寄与率を点数化するなどの方式検討
 - 当面は都道府県拡大により、他の地域でのシミュレーションの状況・結果を監視する
 - (3) 宿泊旅行統計調査シミュレーション分析(基地局データによるもの 1)
 - 統計値との連動性、特に宿泊者数が激減した2020.4以降に関しては、統計値の大きな増減の動きについて行けておらず、当分析に対してこのデータを適用するのは困難と考える
 - (4) 宿泊旅行統計調査シミュレーション分析(基地局データによるもの 2)
 - 統計値との連動性に関して、当データは比較的良く連動しており、当分析に対して当データを適用することが可能と考える
 - 日本人口への拡大推計時の基準として国勢調査を使用しているか確認が必要である
 - 複数種類のデータ購入の必要性を整理し、必要であれば予算措置を計画する
 - (5) 宿泊旅行統計回帰推計自動化プログラムについて
 - 特になし
 - (6) その他
 - 次回開催日時は、後日、再調整を実施
 - 単月では、たまたま合致したり乖離したりするので、ある程度広い範囲で見ていく必要がある。
 - 繁華街に近いメッシュでは宿泊者以外の方がたくさんいる等、メッシュ単位で見えていくと乖離が大きい要因などが見えてくるかもしれない。
 - 年月・場所によって推計精度や乖離状況が変わるので、しばらくは都道府県を拡大して推計値の乖離状況を監視するのが良いのではないかと

以上